

介護職員の方々からのヒアリングで出された主な意見

※ 議事録をもとに事務局にて整理・要約

	主な意見
6月(600時間)研修の必要性	<p>(研修受講は必要という意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格の意義を捉えて、大事に思う人は、支援があってもなくても受講する。ただ、金銭面・時間面の負担の軽減をカバーすれば受けたい人がもっと増える。 ヘルパーとして質の高いサービスを提供したいという思いは強い。 介護福祉士のレベルを統一するためには、一定の研修を受けるという仕組みを作ることは必要。 <p>(研修受講は困難、必要ないという意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉業界の壁が厚くなる感じがする。資格の敷居が高くなる。現場はヘルパーで十分機能している。人材流出につながりかねない。 お年寄りとの継続的な関わりや信頼関係の構築、家族との関わり等、実際の介護で本当に大切なことは現場で仕事をして初めて経験できる。 受験のための研修では、受験が終われば忘れてしまう。自発的な研修とは異なる。
研修期間	<ul style="list-style-type: none"> 働きながらでも、何年かかっても取れるような仕組みにしてほしい。一度に通うのは無理。
通信課程	<ul style="list-style-type: none"> 6ヶ月も現場をあけるのは難しい。利用者との信頼関係が崩れる。 通信教育ができれば、不規則な勤務でも不安無く研修が受けられる。 人手不足もあり、勤務も不規則なため、勉強する時間がとれない。今でも研修の都合で行きたい研修にいけない。 常勤で夜勤も入っている場合、通信課程でもレポート・自習などをこなすのは難しい。

主な意見

身近な地域等での
受講
過去の研修受講歴
の評価

- ・ 定期的な研修をいつでも受けられるような状態を作り出すことが重要ではないか。
- ・ 身近な地域等で研修が受けられるようにしてほしい。
- ・ 過去に受講した研修や地域の研修を読替えることができる仕組みにしてほしい。

受講費用の支援

- ・ 現在の給与の中で研修費用を捻出するのは困難であり、研修費用の支援をしてほしい。

事業者への支援

- ・ 研修期間中の職員の確保が問題。
- ・ 代替職員を派遣されても、施設の方針や利用者の特性があるので、すぐに戦力になるのは難しい面もある。

介護現場への情報
伝達

- ・ 介護福祉士の専門性が何か、ということが現場に見えない。(名称独占であり、無資格者との違いがない。)
- ・ 勉強すれば目の前のお年寄りがもっと幸せになれるという専門性を説得力ある形で現場に伝えていただきたい。
- ・ 6月もかけて何を学ぶのか。6月研修(いわゆる600時間課程)の詳しい内容が現場に下りてこない。